

議 事 録

委員会名	令和元年度第2回 足立区男女共同参画推進委員会
日時	令和元年8月22日(木) 午後2時～4時
会場	L・ソフィア 3階第2学習室
出欠状況	委員現在数15名 出席者数13名
出席者	<p>【委員】 石阪督規委員長・乾雅榮副委員長・徳永裕文委員・石川秋恵委員・内藤忍委員・野田睦子委員・保田昌徳委員・田中裕子委員・小川節子委員・上野須美代委員・高祖常子委員・猪野純子委員・亀田彩子委員</p> <p>【事務局】 寺島光大区民参画推進課長、佐藤仁彦男女共同参画推進係長、村山克哉区民参画支援係主任</p> <p>【傍聴者】なし</p>
会議次第	別紙のとおり
配布資料	<p>1 令和元年度第1回男女共同参画推進委員会(7/25)の要点</p> <p>2 「区役所内部における男性職員の育児への積極的参加促進」の内容確認について</p> <p>3 「足立区男女共同参画推進委員会に関する年次報告書」各年度の重点項目(その他)</p> <p>1 令和元年度第1回男女共同参画推進委員会(7/25)議事録</p> <p>2 男女参画プラザ区民企画講座チラシ等</p>
発信者(敬称略)	議 事 内 容
寺島課長	<p>1. 開会挨拶</p> <p>・皆様、こんにちは。それでは、定刻になりましたので、ただいまから第2回目の男女共同参画推進委員会、開催をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
寺島課長	<p>2. 前回(7/25開催)委員会のふりかえり</p> <p>・次第の1番、前回の委員会の振り返りでございます。資料1番をご確認ください。</p> <p>・前回、本委員会のこれまでの取り組みについて、主に7次計画の内容につきまして簡単にご説明をさせていただいたところでございます。</p> <p>・また、2番の、男女共同参画の動向で、石阪委員長から社会的な動きと、足立区の動きと詳しくご案内をいただいたところでございます。</p> <p>・続きまして、今年度の推進委員会における重要事項の課題の抽出でご意見を頂戴したところでございます。まだ課題を抽出するところまでには至ってございませんけれども、各委員から活発なご意見を頂戴したところでございます。</p> <p>・これを受けまして、この後、年次報告書に載せます重要事項の課題の抽出を進めていただければと思います。</p>
寺島課長	<p>3. 「年次報告書」について</p> <p>・それでは、2番の年次報告書のところに移ってまいります。ここからの進行につきましては石阪委員長にお願いをしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
石阪委員長	<p>・それでは、皆さん、こんにちは。よろしくお願いいたします。</p> <p>・議事に入っていきたいと思いますが、まず、重要課題の抽出ということになっていきますけれども、資料2ですね。</p>
寺島課長	<p>・資料2番につきまして、前回の意見交換していただいた中で、実施状況調査票に</p>

絡むご質問だったんですけれども、区役所内部の男性職員に対する育児参加への積極的な参加の促しができた所属が全体で79%だったといったところ、実際にどういった働きかけをしたんでしょうかというようなご質問を頂戴したところです。

・実際に、回答にございますけれども、所属からその男性職員に対してどういった働きかけをしましたかという形で調査を行っております。その 番から 番までございますけれども、その 番を働きかけをしましたよというところ、もしくは 番と 番、いずれも働きかけをしましたといったところの所属が、実際男性職員、お子様が生まれた男性職員が48所属があったうちの38の所属ではそういった働きかけはしましたと、できましたというところだったので79%といった形の数字になっております。

・逆に、できなかった21%はどういった理由からできなかったんですかというところなんですけれども、実際にこの調査の中ではそういった後追い、深掘りの調査というのは特にしていないところなんですけれども、自由記述欄などから推察すると、職員本人が十分に制度等、自分たちで研究してじゃないですけれども、確認をした上で積極的にこういう制度を使わせてくださいというような働きかけが職員本人のほうからあったので所属として積極的な働きかけは実際必要がなかった、行わなかったといったところが見られるといったところで、そういったものが21%の中に含まれているのかなというところでございます。

・問2番ですけれども、令和元年度の目標値が85%になっています。こちらの根拠なんですけれども、計画の最終年度、令和3年度が100%になるようにという設定で、そこから割り返していくと元年度の目標が85%になるといったところでの目標設定になっているという報告を受けております。

・以上です。

石阪委員長

・ということですので、数値としてはかなり、8割ですから高い数値なんですけど、目標値は一応85%ですので、これはなぜかということに関していうと、100%目指してだんだん増えていくという、そういう数値になって今途中だということがあります。

・だから、所属でいうと10が働きかけがなかったということになるんですね。48のうちの38は働きかけをしたということになっています。

・よろしいですか。これについて何か質問はいいですかね。役所の中では今こういう形で、将来的には100%になるように働きかけをするということですね。

・一応質問に対する回答ということで、それでは、重要課題の抽出に入っていきたいと思うんですが、おそらく前回の最後に皆さんにいくつかお示したんですけれども、第7次の足立区の行動計画があって、その中から全て今年度議論していくのはなかなか難しいので、2つぐらいに絞って、ある意味で深掘りする形で皆さんからのご意見を伺いたいという、その中で皆さんが今どういうことに関心があるのかとか、足立区の喫緊の課題としてどこを提言、あるいは議論として盛り込んでいくのかということをお伺いしたいということになります。

・今年度と来年度2年間ありますから、今年度、そのうちの2つ、次年度また2つで計4つ、2年間かけてテーマについて議論していきたいというお話をしたんですけれども、過去のどんなことを議論してきたのかというのが資料3に書いてあります。平成30年度から遡る形で27年度まであります。

・実は、29年度より前は第6次の行動計画でしたので、ホッチキス止めされている第6次の行動計画に沿ってテーマを抽出したということになります。このときはテーマを4つ選んだんですね。細かかったということもあるので4つを選んで4つを議論したんですが、今年度、延べ5回でしたかね、あと。4つを議論するのはな

かなか難しいということで、30年度以降は2つに絞って皆さんと議論してきたということになります。

・ちなみに30年度は、1つ目が防災・減災・復興に関する、男女共同参画の中でもこの防災に関する事、これを1つ目のテーマ、それから、2つ目のテーマは、子どもたちを健やかに育む地域・社会の醸成と書いてありますが、これはどちらかというと貧困対策に近いような、そのようなお話を皆さんと一緒にしてきたと。

・29年度は、これはワーク・ライフ・バランス、これは毎年やっていたんですね、ワーク・ライフ・バランスね。これを見ると、27、28、29。それから、子育てとか地域活動。28年度には女性の再就職やチャレンジですね。それから、政策・方針、これは主に庁内での男女共同参画の進展度などを議論してきたということになっていますので、今年度また何を議論していくかということになるんですが、今年度も第7次の行動計画に沿って皆さんからご意見をいただければと思うんですけども、第7次の行動計画の冊子に体系図というのがありますが、体系図を見ていただくと基本目標が4つ大きなものがあって、持っていない方は事務局のほうから。

・今日の机上の資料にありませんので、この体系図をご覧になっていただいて。

・ちょっと見ていただくと、一番左側に基本目標という大きな4つの柱があります。その次に取り組みの方向性、どちらかというと中分類になりますね。そして、右側に施策と書いてあって細かなことが書いてあるわけですが、ちなみにですけれども、前はどこをやったかということ、真ん中のところの取り組みの方向性ということで、このちょうど2の5に当たります、多様な視点を防災・減災・復興に生かせる社会風土の醸成、ここをやったんですね。これが1つ目です。

・そして、下から2つ目になりますが、4の1のところ、子どもたちを健やかに育む地域・社会の醸成と、この2つを議論の対象として取り上げたということになりますから、おそらく2年連続で同じテーマということは避けたいと思いますので、それ以外のところで皆さんが、例えば足立区でいろいろ活動されたり、お住まいになっているところで、これはやっぱりひとつ議論しておいたほうがいい、あるいは、逆に提言として区長のほうに上げたほうがいいというものを今日選ぶという作業をやってまいりたいと思います。

・もし今年度、例えば、どうしても大事だと思っても、選ばれなくても次年度もありますから、そういう意味では2年かけて4つこの中から選んでいくということになりますので、ちなみにちょっと上から見ていくと、まず1番目は、これはワーク・ライフ・バランスに該当するところですね。いろいろ細かな点を見てみると、女性のキャリアアップであったりとか、子育て支援も含めますし、それから役所内での女性の参画であったりとかいろいろ、この中でのどこかにやっぱり焦点を当てなければいけない。

・それから、2つ目のところは、これは、個人の個性や多様な生き方を尊重し相互理解が進む社会の醸成で、地域のこととか、人権のこと、孤立のこと、場合によってはLGBTとかそういう問題も入ってくるのかもしれないけれども、いずれにしても多様な人権問題にかかわることが中心です。

・3つ目、これはDVと暴力の根絶の支援ですから、DVに関係あることがここには並んでいます。

・そして、一番下は、これは足立区の一つの特徴でもあります、貧困の連鎖をどうやって断ち切るかという問題です。

・僕もいろんな男女共同参画の計画を見ているんですけども、この項目が入っているのは足立区だけですね。貧困で大項目をつくっているというのはおそらくここだけ

	<p>だと思しますので、前ははそのうちの1を取り上げたわけですが、こういう柱立てになっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ということで、ちょっと皆さんから、これにしますということではなくて、おそらく今皆さんが生活でこれは大事だということをやっと一言ずつ、乾委員からどうでしょう。今年度特にとというのがもしあれば。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ずっといろいろやってきまして一番長いんで、おそらくこれずっと遡っていくと全て議論はしてきているんですけども、特に今の足立区を考えるとどこかということなんですが。
乾副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・女性活躍のための環境整備もあるんですけども、ワーク・ライフ・バランスについてはずっとやってきているので。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、1つは、ワーク・ライフ・バランスは結構ずっとやっているんで、どうでしょうかね。これを、あえて今年度やらなくて来年度というのも一つの考え方でしょうね。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ちなみにですけども、区民評価で結構厳しかったんですね、ワーク・ライフ・バランス、一生懸命足立区としてはやっているんですけども、多分全体の母数が大き過ぎるんですかね。たくさん会社がある割にはワーク・ライフ・バランスに参加している企業ってごくごく一部なんで、やっぱり、区民評価の視点からすると、これは全然普及していないよねという見方がかなり強いんですが、ただ、足立区としてはいろんな見直しをして、例えば星3つ、2つ、1つにしてみたりとか、あるいは地道な働きかけですね。これを今後やっていくということですので、とりあえず様子を見守ってみて、あまり数値が改善しないようでしたら来年あたり少し何か別のアイデアみたいなものをちょっと取り入れていくことも必要かなと。 ・あと、そうですね、順番。徳永委員、やはりDVとかそのあたりですかね。今まであまりやってこなかったテーマでもあるんですけども。
徳永委員	<ul style="list-style-type: none"> ・何の用意もしていないので、ぱっと思いつきなんですけれども。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・いいですよ、ぱっと思いつきで構わない。
徳永委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私が結構法律相談などを受けて、離婚の相談って非常に多いんですね。特に、私の中でですけども、女性側からの離婚の相談って結構私、お受けすることがあって、事件も離婚事件として受任することが多いんですね。 ・離婚って相手とすんなり合意できれば別にすぐ離婚できますけれども、なかなか、例えば親権でもめるとか、財産の関係でもめるとか、養育費の額だとかいろんな争点があるんで、大体長期化するんですね。調停を起こさなきゃいけないと、調停を起こすにしても1年とか2年とかかかる事件はかかって、その間すごく問題になるのがその方の生活費なんです。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・特に女性の場合ということですね。
徳永委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうことですね。今まで専業主婦をされていたけれどもこのたび別居することになって、お子さんも育てながらだから何とかアルバイトで稼ぐと。別居している相手方の配偶者から婚姻費用をちゃんともらえればまだましなんですけれども、必ずしもそれを払ってくれるとは限らないと。 ・たとえ調停でその点についてだけ合意がまとまったとしても払ってもらえない可能性もあって、そのときに生活費が不足するんですね。お子さんが私学とかに通っていると特にその学費どうしようとか、そういうことを訴えられる方が多いんですけども、こちらとしても相手に払ってもらえ、相手が必ず払う義務があるわけじゃないんで、必ずしも大丈夫ですよは言えないんですね。福祉、役所とかに相談してみたらどうですかと言っても、何かちゃんと離婚が成立しないともらえるサービスというのが大分限られているみたいで、そこで結構貧困にあえぐということが多

	いんです。
石阪委員長	・そうですね、これで言うと上のほうですかね。女性のキャリア形成とか再就職、そっちですか。どこになるんだろう、そうすると。
徳永委員	・この 2 とかに多分今の話が近い。
石阪委員長	・ の 2、ひとり親への支援ですね。
徳永委員	・そうです。
石阪委員長	・これは、でも……
徳永委員	・ちょっと似ているんですけども。
石阪委員長	・でも、あり得ますよね。
徳永委員	・ただ、よくその依頼者から訴えられる内容というのはそういうところで、こちらとしてもやりようがなかなかないところなので、悩むというのはありますね。
石阪委員長	・一番下ですね、これ。小さい項目で言うと⑫番みたいな感じかな。ひとり親家庭への就労等の支援機関の活用と連携による自立促進、つまり、そういう場合、自立していただかないとなかなか自分の生活を防衛することができないんで、そのあたりの支援ですね。
	・これ、担当課、どこですか。やはり、貧困……
寺島課長	・いや、親子支援課になると思いますね。ひとり親に絞っていった形になりますので。
石阪委員長	・これも一つありかなということですね。
	・ちょっと一通り聞いてみましょうか。石川委員、どうですか。
石川委員	・私も仕事柄なんですけれども、同じ 4 の 1 番の、特にひとり親家庭の支援というところで、傾向として、やはり、ほかの区から比べるとハローワークに相談に来られる方のひとり親の方の率というのは足立区は高いんですね。その方々の就労支援というところでこの辺、一番下のところが興味はあるところですね、支援していかなくちゃいけないのかなという。
石阪委員長	・そうですね。基本的にはやっぱりひとり親なんです、大変なのはね。
石川委員	・その中で、そのワーク・ライフ・バランスということで女性の活躍できる職場というのが増えればいいなというところは、関心があります。
石阪委員長	・例えば、今また、一番下の 42 はどちらかというひとり親限定ですけども、上のほうにある で言うと 、女性のキャリア形成、再就職、これはどちらかというひとり親ではなくて、むしろキャリアアップみたいな感じなんです。ちょっと違うんですかね、ニュアンスが。おそらく両方とも相談あると思うんですけども、は、これはまた別の担当部署。
寺島課長	・そうです。これだと産業経済部になってくるのかなと思うんです。
石阪委員長	・例えば新たに起業したりとか、例えば資格取得とか。
寺島課長	・そうですね、就労支援の切り口という形になりますね。
石阪委員長	・ありがとうございます。
	・内藤委員、どうですか。
内藤委員	・今のお話出ている 4 の 2 が大変重要だと思います。実際に同じ、徳永委員がおっしゃったような困難があるというのも当事者から聞いたことがありますし、最近の施策で見てもそこは入っていない、重点項目で見ても入っていないようなので、とてもいい視点だなと思います。あと……
石阪委員長	・むしろ、ひとり親に特化してということね。
内藤委員	・そうですね。その後の就職に至るまでの、多分、おっしゃった 1 の 2 のところに至るまでの間の生活支援とかですね。そこは当座本当に困るところだと思います。住宅支援とかいろいろあると思いますけれども、シェアハウスとかやったりしてい

	<p>ますよね。そういうのも含めているあると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あとと思うのは、この出していただいた資料を拝見して、やっぱり、一方面が、全部1の1とか、全部括ってみたんですけれども、やっぱりこの基本目標で言うと1が多いのかなと、ワーク・ライフ・バランスのところですね。
石阪委員長 内藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今までやってきたところがどちらかというと、大きな項目で言うと1が多かった。 ・全部、はい、そうですね。29年、28年度。28年度はDVが最後に入っていますけれども。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・前回、おそらく6次計画が比較的ワーク・ライフ・バランスを中心にした計画だったんですね。
内藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・なるほど、そうですね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・これはワーク・ライフ・バランスが大項目の2つを占めていて、1も雇用についてなんで、ほとんどこれはワーク・ライフ・バランスですね。
内藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・なるほど、なるほど。多分そういうことに由来しているかと思うんですが、これは考え方だと思うんですね。あらゆる層に向けての重点項目を、例えば、2つですと、1つ、バランスをとった2つ採るとかいうのと、あと、いやいや、我々でやるのは一番困っている層に焦点化して2つ出していくという、それは考え方いろいろあると思うんですけれども、やっぱりまだ、より困っている層がいるならばそこを頑張ったほうがよいのかなという点で今話が出ているように。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今3人に共通しているのはそこですね。一番多分大変なところ、これが一番下と。
内藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、はい。あと、3の3ですか、3ですね、暴力の被害者の……
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・これも困っているところですね、どちらかというとね。
内藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、防止と支援、これは4の2とも若干絡むのかなとも思います。DV被害者のうち婚姻している人については離婚に至るということも、結構重なっている問題ですし、支援が重要ですね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、重なっているところもありますね。
内藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、行政の支援が重要だと思います。そういう点で、ちょっとこの間の調査なんか見ますと、結構ハラスメントや暴力を受けているという人が区民でもいらっしゃるという結果になっていますので、それは1つかなと思いました。 ・あとは、これまで見ているところで言うと、6次計画になかったんでしょうけれども、人権のところは今回1項目として入っているので、委員長もおっしゃられたように性的マイノリティーのことも1つ、2の1の中の項目として入っていて、世の中としてもLGBTの問題が大きくクローズアップされていて、雇用の領域ではパワハラの一つであるということで法規制の対象になってきているということもありますので、こういったことも一つ候補かなと思います。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマとしてはあり得ますね。
内藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
野田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・野田委員、いかがでしょう。どうでしょう。 ・私は今働いて、一番時間を使っているところが社労士会が運営している街角の年金相談センターというところで年金事務所と同じようなことをやっているんですけれども、そこで福祉事務所から持ってこられる方の調査、年金の納付状況であったり、受給状態だっりの調査をする時間がかかり、件数もあるんですが、そのときに貧困の連鎖ということで、これはひとり親ではないんですけれども、家族皆さんが生活保護を受けていて、お父さん、お母さんに、あと二十歳になったばかりのお子さんが皆さん全員で保護を受けているという、そういう方を本当にたくさん見ているんです。

	<ul style="list-style-type: none"> ・記録を見るとその方の人生がちょっと見えてくるんですけども、何か病気があったんだとか、何か大変な事件があったんだとかというのが、離婚があったんだとか判るケースもあるんですが、ただずるずるっと貧困のまま、このままいってしまうんだらうな、この方たちはという方たちがかなり見受けられるので、ひとり親ということで限定はしないんですが.....
石阪委員長 野田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり絞らずに、ある意味では貧困対策ということですね。
	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、貧困がそのままずるずるっと連鎖しているというのを断ち切るのに何かあればいいなというのはちょっと感じました。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・まさに4人貧困来ましたけれども、先週、別の自治体の会議に出たんですけども、これだけ貧困が最初から続く自治体も珍しいというか、やっぱり足立区の抱える本当に問題かもしれないですね、1つはね。
	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画というよりは、やっぱり、そこは困っている人というのはひとり親だったり、貧困だったり、今の話はご家族自体が貧困ということになっていますので、これは1つやっぱり区としては大きなテーマなのかなという感じはします。 ・保田委員、どうでしょうか。例えば、視点をちょっと変えてということになるんですかね、そうすると、ご自身の。
保田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私は今から三十数年前に結婚を機に足立区に越してきて、子どもたち2人も足立区で生まれて、足立区で育て、もう巣立っていきましたけれども、親と一緒に住んでいるよりも足立区に家族と住んでいるほうが長いんですけども、会社も足立区にあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の方というか、普通に採用活動していく中で女性の社員がだんだん増えてきて、今大体4割を超しているぐらいの、マイクロエレベーターという名前ですから堅いような感じがしますけれども、女性の方が4割ぐらい増えてきています。 ・今も新卒の採用活動していますけれども、学生さんが10名いらっしゃると大体7名ぐらいが女性の方、非常に多くて、社員のうち大体6割ぐらいが足立区在住の方、私も含めてそんな感じです。 ・幸い、ちょっとうちの社員で貧困にあえいでいるとかそういう方はいませんけれども、もちろんいたら困るんですけども、興味があるのも、やはり、ちょっと誤解ないように、女性がやはり、うちの会社にいる女性の方たち非常に優秀な方、多いですね。そういう方を、それから、こういう区の行政と私たちのような企業とが結果的にタッグを組んでより応援ができるような、そういうことをここで勉強できたらいいなと思っていますし、それから、やはり、あともう一つ、足立区がこれからも、私たちの会社もそうですけれども、繁栄していくためには次世代が大事なので、子育てとということを、あえて2つ、防災とか減災にも興味ありますけれども、やはり女性も男性も安心して介護だったり、育児だったりに専念できるような、そういうことと、あとはお子さんですね。
	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人のお子さんも大分増えてきていますから、そういうことも含めて、何かその2つのことを勉強できたらいいなと思っています。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・1つは、やはりワーク・ライフ・バランス、広い意味でのね。やっぱり、女性をある意味では戦力としてお考えということもありますし、また、定着してもらうためにはさまざまな支援を行政と一緒にやっていかなきゃいけないという思いがあるんで。
	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。こういう方向で足立区で取り組んでいるということは、自分の会社に戻って、それに倣ってうちの会社もこういうふうにしていこうということと比較的言いやすいんだと思うんです、足立区に住んでいらっしゃる方も多いですから。
保田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。こういう意味では、何か企業の先進的な事例が知りたいですね。ほかの、例えば、
石阪委員長	

保田委員	<p>保田委員のところだけじゃなくて、何かいろんなことを取り組み、多分されていると思うんですね。そういうのをみんなで共有してみても、例えば会社の中で、女性の方たくさんいらっしゃる中でちょっと発言が不適当かもしれませんが、うちの会社で言うと、とにかく女性の方が働きやすい職場づくりを目指してきたんです。</p>
石阪委員長	<p>・例えば、足立区で事務所ビルを借りようというって賃貸物件を探すと、男性と女性のトイレが別になっている建物ってほとんどないんです。</p>
保田委員	<p>・そうですね、トイレ1つ、共用というね。</p>
保田委員	<p>・はい。ですから、うちの会社、今ちょっと別のところで、建て替える際に一番重要視したのは女性のパウダールームだとかお手洗いがちゃんと、男性と兼用じゃないとか、そういうことをしていくことで、結果的に社内の雰囲気ですとか会社そのものもよくなってきたという実感があるものですから、女性の方からしたら当たり前って皆さんおっしゃるかもしれませんが、</p>
石阪委員長	<p>・いや、結構重要な指摘ですよ。トイレ問題って、意外に男女共同参画でかなり議論されてきていて、その辺そうですね。たしか、女性としてはかなり抵抗あるんじゃないですかね、トイレが1つというのは。</p>
保田委員	<p>・休憩室なんかもそうですね。更衣室だとかそういうところも、事務所の片すみで、つい立てのところで着がえていたりだとかする事務所もあるようなので、それとこれは全然関係ない話ですけども、やはり女性を大切にすると雰囲気がよくなるなというのは、私は実感しています。</p>
石阪委員長	<p>・ありがとうございます。</p> <p>・あともう一つ子育てということもあるので、おそらくそうですね。子どもの問題というのは今出てきませんでしたけれども、貧困としては出てきましたけれども、田中委員、いかがですか。</p>
田中委員	<p>・仕事、長く教員をやっていたので、その教員をやっていたときには、割と小学校にお子さんが上がると働き出すお母さんたちが多くて、いわゆる専業主婦という方は少ないなって、それは、例えば40年ぐらいやっている間にだんだん、だんだん減ってきて、今ほとんどいらっしゃるかな、いらっしゃるかなというぐらい働いていらっしゃる方は多いと。それが正規か、パートだとか、なのかということとは別として、全くおうちにいらっしゃる方というのは少ないんじゃないかなって。</p>
石阪委員長	<p>・それは減ってきましたよね、そういう意味じゃね。</p>
田中委員	<p>・そうですね、と思うんですね。そんな中で別の問題がまた発生して、例えば、学校が終わった後の子どもたちがどこにいるかという子どもたちの居場所だとか、そういったようなことがまた別の問題が起きてきて、そこでまた学校の居場所づくりみたいなことも今盛んに行われているので、一つ一つ解消されていっているんだろうなと思うところがあります。</p>
田中委員	<p>・それと、あとは、人権擁護委員として、例えば、相談を受けたりするときに、そういった貧困だとか、働く場所がないだとか、そういったような相談を受けたなということはあまり記憶がなくて、むしろ日常の、言葉に出すとつまらない問題なんだけれども一体どこにそれを相談したらいいのかというのが見つけれない、誰に相談したらいいのかというのが見つけれないという方が多いなというのを感じるんですね。</p>
田中委員	<p>・さまざまに国だとか、都だとか、区だとかいろんな窓口があっても、自分の悩みの該当する窓口がどこなのかがわからないという相談が多いなというのを感じるんです。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・そういった意味から、男女共同参画ということにどうなのかなという気はするんですが、私は2の4の全世代における孤立の防止というところが一番この中では気にかかるところではあります。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・これは部署で言うとどこ、孤立対策ということになるのかな。
寺島課長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のちから。
寺島課長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のちからですね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、孤立。どこともつながっていない方がどんどん増えていくと、結局窓口に行かなければ実はサービスって受けられないんですよね、行政のサービスはね。そこにまで行き着かない人をどうやって支援するかという。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それと、あともう一つは、やっぱり学校の、どちらかという学童保育室とか放課後クラブみたいなところにいる子はいいですけども、そうじゃない子もいますよね。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・いますね、はい。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういった人たちのケアの問題、居場所の問題や。大体は、でも、足立区はかなり進んでいます、その何か放課後子ども教室……。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それは大したものだと思います。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・全校に多分設置。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それは設置してあります。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・何か、かなり普及していますよね。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それから、いわゆる学童保育室だけじゃなくて児童館みたいなものも結構あるというふうには伺っていますので。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急の場合に受け付けてくれる制度もありますので、児童館とかは。ですから、そういうところは本当に充実していると思います。そういうことの周知もされているので、入学したときの。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・じゃ、地域の協力体制みたいなのも結構できているんですかね。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域というか、行政とのですね。放課後の居場所づくりは地域の方たちの協力を得てやっているところですけども。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、わかりました。ありがとうございます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・小川委員、いかがでしょう。
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私、七十何年過ごしてきたんですけども、今田中委員のおっしゃることも共鳴するところあるんですが、そういう区とか自治体から発信されたものを上手に利用されている方って、されている段階が限られていると思うんですね。本当の末端、末端という言い方は失礼かと思うんですが、そういう人が、親そのものがその制度に対して無関心だったり、自分も子どもを預かってもらえるんだ、お願いできるんだという、それを利用しようとする心が、そういう年代というか、階層というか、人たちにまだ及んでいないのがちょっと残念ですよね。 ・今、委員長がおっしゃったように、足立区はいろんな子どもやなんかに対する制度が発達しているという中で、上手に利用している方もたくさんいらっしゃるんですけども、うちの周りパチンコ屋さんがあるんですね。そうすると預けてパチンコ屋さんにも行けばいいのに、そのままただだとひもつきのよう子どもたちがついて周りで遊んでいたりとかってね。 ・ということは、その制度を知らないか、知って利用させようという意識がないか。ということは、親そのもののもっと知識を与えとかお勉強する場がもっと必要な

石阪委員長	<p>んではないかなということですよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、足立区の多分、おそらく調査で貧困世帯であればあるほど親のネットワークの数が少ないというデータも出ていて、つまり、貧困と孤立って、実はセットなんですよ。
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうセットになっちゃっていますよね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうなんですよ。逆に、貧困じゃない世代はいろんなネットワークを持っているから、預けるところとか、こういうときはこうだということを全部知って、いろいろサービスも利用しているんですね。今、その問題ですよ、おっしゃったの。
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうです。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・これもどちらかという貧困とか、そういう問題にもかなり結びついてくるのかな。
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうなんです。まさに貧困が招くゆえんですよ。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、ありがとうございます。 ・上野委員、いかがでしょうか。
上野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今の続きで言いますと、足立区には48館の住区センターがあるんですよ。48館で、私の家の近くは弘道なんですけれども、大体皆さんそこに学童保育室と、それから児童館とか、学童保育室のほうはお金、毎月取られる、6,000円ぐらい取られて、児童館は自分で勝手に名前書いて、いろいろ、だから、そういうことがとても発達している、よくできているんですね。 ・子どもたち、ほとんどそっちのほうへ皆さん行っています。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今、こういう夏休みの時期だと。
上野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今の時期だとほとんど満杯です、もう。ここも何か子ども随分遊んでいますけれども、満杯だと思います。 ・ただし、町会・自治会に加入、なかなかしていないところが多いんですよ。自治会というところは団地とかマンション。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・加入率自体50%ぐらいでしたね、足立区はね。
上野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・60%ぐらいはいつているんですけども、結局そこに入っていないと子どもたちがお祭りやなんか、券を配るんですよ、そうするともらえないんですよ、券と。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・その子たちは、自治会に入らないともらえないんですか。
上野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ええ、もらえないんです。自治会は大体みんな入っているんですけども、町会さんとかマンションがなかなか、新しいマンションが最近いっぱいできていますから、そのマンションのオーナーが入らないとそこがちょっとだめなんです。 ・子どもも入ってくると、この間も言われて、私、ちょっとかけ合ってやって入れてもらったら、このマンション入っていますから次からは券を配りますよということで、親がなかなか知らない人もいるんですよ。 ・だから、それはやっぱりその地域の会長さんたちが声をかけてやらなきゃいけないので、そういうこともありますので、だから、大体は町会さんが、加入しないとだめなんです。マンションができていから、そのマンションのオーナーさんがどういうふうに行っているかということなんですよ。そこで加入していれば、大した値段じゃないんですよ、一軒一軒でも。安いと、うちのほうは、私は団地ですけども月2,000円でいろいろやっていますけれどもね。だから、ごみ問題とかも、そういうのもいっぱいあるんですよ。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみも、あれも町会・自治会がステーション管理しているんですよ。
上野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・もう全部やっています。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・だけでも、捨てることはできるんですか。
上野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ええ、できます。一応はね。言えないでしょう、捨てちゃだめだなんていうこと

	はね。
石阪委員長	・結構いろんなところで。
小川委員	・はい、どこにも所属していなくても足立区民であればごみは……
上野委員	・やっています。
石阪委員長	・ただ、ステーションの管理自体は地縁団体が、地域の団体がやっているんですよ。
上野委員	・そうなんです。だから、私なんかも結構あちこち片づけて歩いていますけれども、あまり汚いと。足立区、結構汚いんですよ。
石阪委員長	・それでも、全国的にはかなりトラブルになっていて、やっぱり、払っていないのにごみを出すというのはどういうことなんだということで、最近立っている人もいるみたいですね、毎日、ちゃんと朝の時間。
上野委員	・いますよ。
石阪委員長	・自治会未加入者がごみを出しに来るとだめということで。
上野委員	・でも、だめって言えませんよね、それは、絶対に。だから、一応曜日が決まっていますから、新しく入ってきた人が、それは、また曜日決まっていなくてぱっと入れちゃうんですよ。そうすると、誰が捨てたかわからないから結局そのまんまになっちゃうとか。
石阪委員長	・今のお話もある意味では地域の問題ですね、どちらかというね。
上野委員	・ええ、地域の問題です、それは。
石阪委員長	・男女共同参画、広い意味での男女共同参画ということなのかな。
上野委員	・ええ。子どもたちもそういうこともいろいろ覚えさせなきゃいけないなと思っていますけれどもね。
石阪委員長	・ただ、僕のイメージだと足立区って、でも、自治会・町会、かなりまだしっかりしているほうで、ほかの区に比べるとですね。
上野委員	・しっかりしています。そうですね。
石阪委員長	・ただ、一方で、それが加入率がどんどん下がっている中で、それをフォローする仕組みがなかなかないのか。今みたいに入っていないともらえないというのは、ちょっとかわいそうな話で、学校としては何もできないものね、地域のことはね。町会・自治会入れとはさすがに言えないでしょうし。
上野委員	・そうなんですよね。入れと言えないからね。それはオーナーの問題ですからね。
石阪委員長	・難しいです。ありがとうございます。
	・高祖委員、どうでしょうか。
高祖委員	・私は虐待防止の活動をしているので。こちらは男女共同参画の会議なのですが、先ほど徳永委員からもお話ありましたけれども。虐待自体、今、足立児相が足立区と葛飾と両方管轄していますが、足立の虐待の割合自体がすごく多いそうです。その背景には、やっぱりひとり親家庭だったり、DVが関係していたり。あるいは、離婚の話が調停中などで、その間の生活費の話もありました。あと養育費。多分、養育費も区で比べるのはよくないかもしれませんが、全国的にもなかなか養育費ちゃんと払えない問題ってありますが、足立区だとさらにそういうところがあると思います。そこからまた貧困につながっていくのかなというところはちょっと気になっているところですね。
	・あと、足立区って結構広いので、千住とかこの付近の地域は子どもがいたり。かなり高齢化も進んでいたりというところもあります。高齢の話も、だから1の3みたいところで、やっぱり子育てと介護という部分。子育てだけじゃなくてやっぱり自分の、地域に住んでいる自分の親もそうだし、あと地域外の親の介護もしながら、それでも働いている人もすごく増えているので、そこら辺の育児と介護のとい

石阪委員長 高祖委員	<p>うところ、包括支援センターの役割も……</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、地域包括がありますからね。 ・はい、そっちも、足立区でも多分ちゃんと進めようとはしていると思うんですけども、そちらのほうもちょっと気になります。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。大きく考えると今まで育児・介護って家庭がやっていたわけですけども、おそらくそれがいろんな諸々の問題を担い切れなくなってくると、やっぱり、それに社会サービス、行政サービスが入ってくるわけですよ。 ・地域包括も今まで家族がやっていた、家庭がやっていたことをかわって行政がやってくれるようになったわけですけども、やっぱり、それに漏れてしまう人であったり、サービスが不十分であったりということでもうまく切り替わっていない。それから、我々規範の中に、例えば、介護や育児は親がやるべきだとか、子がやるべきだという規範がやっぱりなかなか日本人の場合抜け切れないという面があって、やっぱり親、子に対するプレッシャーって結構強いと思うんですね。 ・例えば、施設に入れちゃうとなると、そんなに親を見捨てていいのというプレッシャーが周りから来たり、あるいは、子どもを誰かに預けるといって、いや、小さいうちは自分で育てたほうがいいんじゃないのみたいな、何かある種のプレッシャーというものを抱えながらやっぱり社会サービスを利用している。そのあたりも大きな問題だと思っていて、男女共同参画を進めていく上ではね。 ・これは介護とか子育てというのはやっぱりその家族規範、これに強く縛られた我々をどうやって新たな時代に向けてみんな子育てや介護を共有するかという時代が変わっていくための今ちょうど過渡期なんですよ。この辺をどうやって乗り切るかということも一つの大きなテーマかなと。だから、セットと言えばセットですよ。
猪野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・猪野委員はどうでしょう、例えば、介護という視点で。 ・そうですね、私も石阪委員長とか高祖委員がおっしゃったように、やっぱり本来は介護は社協であったり、福祉であったりの分野となってこの場ではあまり論じないという、あると思うんですけども、やっぱり足立区の高齢者が都内で2番目ですか、多いですし、そういうことから考えると、一緒に組み込んで男女参画でも考えてほしいな、今期からはとは願いますね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・おそらくこの場で介護問題議論したことあまりないので、介護って、結構今担い手はほとんど女性じゃないですか。そう考えると、今後の、例えば、これは家庭でもそうですし、それから、いわゆる業界でも福祉系の仕事ってほとんど女性が担っている、しかも低賃金でね。
猪野委員 石阪委員長 猪野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、そうなんです。 ・だから、この問題も実は保育と一緒に…… ・そう、全部に関係してくるんですよ。だから、高齢者だからといってDVがないかといったらないこともないし、親子間でも無関心でいけば虐待になるので、そこも問題が出ていたりするんですよ。今、50代の働き盛りの子どもが親を見なきゃいけないけれども、息子とかだと割と無関心、やっぱり仕事中心になってしまっただけで全然見ないと。 ・もちろん、介護サービスとか何とか入れるけれども、結局その承認とか許可は家族からもらわなきゃいけないんですよ。そういうので、結局ひとりで、動けないのにひとりで暮らしている老人の方とかも結構いらっやって。 ・だから、その子どもさんの問題もありますけれども、同じようにそれを置き換えると高齢者でも本当同じものを抱えているので。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、同じような実は問題も抱えています。

猪野委員	・そうなんです。だから、それを今度見なきゃいけないのはどうしても家族になるので、今度家族の仕事の問題とか、働き方改革って言われても何も改革ないですよ。
石阪委員長	・一応、国は介護離職ゼロみたいなこと言っていましたけれどもね、一時政権はね。
猪野委員	・ないですね。その大手の会社はちゃんと介護休暇とか、もちろん法律上は全部ありますけれども、なかなか取得はできないし、小さい会社だったら全くそういうないので、特に働いている人は、私もそうですけれども、正社員で高年齢になると雇ってもらえないですから、契約社員とかパートとかになると、もっともっとそれが狭まってきて、結局働かなければ時給が入ってこないという。そうすると、介護サービスも利用できないと家でいさせなきゃいけないとか、どんどん。
石阪委員長	・そうすると仕事辞めなきゃいけないみたいなね。
猪野委員	・そうなんです。
石阪委員長	・悪循環ですね、そうすると。
猪野委員	・だから、結局貧困の連鎖はそこでも発生しちゃうんですよ。だから、やっぱり、子どもも多いし、高齢者も多いので、そういうのが足立区の特徴でもあるので、逆にそういうのをうまく組み合わせて何か居場所づくりであるとかできないものだろうかと思うんですよ、助け合えないものだろうか。
石阪委員長	・だから、ここでも、私、ちょくちょく来るんですけども、1階のロビーとか高齢者の方とか、ひとりで来て時間潰してまた帰ってとかされていますけれども、誰とも話さないですよ。元気な人は住区センターとか、いろんなところ行けるんです。
上野委員	・住区センター行かれる方は元気なイメージありますよね。
猪野委員	・あそこはお茶やなんかがあるから、そうなんです。
猪野委員	・そこには入れないんですよ、皆さん、元気じゃない方は。そうするとひとりで町なかぶらぶら、ぶらぶら歩いたり、だから熱中症で倒れちゃう方もいるし、でも、誰も看病もしてくれないし、そういう人いっぱいいらっしゃるんで、やっぱりその底辺のところの何かを、足立区だからこそ何かそういう、うまくいけば。
石阪委員長	・なるほど。だから一緒なんですよね、そういう意味でね、貧困という意味で言うとな。
猪野委員	・そうなんです。会社もそういう人たちを担い手として雇って、うちで使うよみたいな企業が増えてきたら、やっぱり、足立区で働いて足立区で暮らせるってなるんですよ。足立区の企業、なかなかないので、どうしてもほかに働きにいかなきゃいけなくなる。何かそこが行政とも、会社とも手を組んでうまいプランづくりができないだろうかって。
石阪委員長	・これも、だからある種の貧困の連鎖みたいな感じになっていて、それをやっぱりどこかで断ち切らないといけないんでね。
猪野委員	・亀田委員、どうですか。
亀田委員	・私は今のお話、本当伺って、うちの近所にも子育てサロンとか結構あって。
石阪委員長	・あるんですね、足立区は結構どこにでもあるんですけども。
亀田委員	・あるんですけども、すごい利用されている方、多いと思っていて、逆に何か進んでいないような事業をそういうのと連携してやるのは本当にいいかなと。
石阪委員長	・例えば、進んでいないって、どんな。
亀田委員	・この間のこの資料でいただいた中でまだ全然進められていないような事業とかをそれに絡めるのはどうかなと思っているのと、あと、やっぱり女性の経済的な自立というところが、あと社会的自立しないと、結局男女の共同参画社会の構築というには多分ならないと思うので、一番重要なのかなというのをすごい実感しているので、男性に経済的な依存をしない、家庭内での家事ってお金になかなか換算されにくいとは思いますが、何かそういうのを評価、評価されないから結局男

<p>石阪委員長</p>	<p>性の家事参加も進まないしみたいなところがあると思うので、経済的な自立というところがやっぱり重要ななと思って。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それから、今のお話だとやっぱり男性に向けた啓発というのももっとしていかないと、このままでいいんだという空気ではなくて。例えば、どこでもそうですよ。日本の統計を見ると、共働き世帯でも圧倒的に男性の家事時間が少ないですね。先進国では断トツで低いんですよ。労働時間は逆に、男性の労働時間というの世界的に見ても一番長い。 ・だから、これがある意味では日本スタンダードなんだけれどもグローバルスタンダードではないというね。これがやっぱりどうなのか。これからの時代を考えたときに、いわゆる性別役割分業みたいなものが、高度成長期の時代ならともかく、今日本はこういう時代に入ってきて、本当にそういう片働き、あるいは家事は女性というモデルで成り立たなくなってきたから、いろんな問題が噴出している中でそういった啓発みたいなものもちょっと工夫が必要かなと。 ・そうなってくると、今日もチラシが入っていますが、例えば講座であったりとか、例えばこんな啓発とか講座をやったらいいんじゃないかというアイデアを出していただくのもひとつありなのかなという。 ・例えば、DVもそうですね、どちらかというね。有効な講座とあまり意味のないものというのも多分あるでしょうし、なかなかDVの被害に遭われた方来てくださって言って講座を開いてもなかなか難しい面も、高祖委員、難しいですよ。
<p>高祖委員 石阪委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・難しいですね。 ・どう啓発するんですか。例えば、やっぱりつながらないとだめなんですよ、でもね。
<p>高祖委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、だからDVを受けているほうも自分は暴力を受けちゃいけない。受けるべきではないという意識をちゃんと持たなきゃいけないし、虐待もそうなんですけれども、暴力を受けて当たり前じゃないよという受ける側、受けてしまう側のほうにも啓発が必要ですね。
<p>石阪委員長 高祖委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・両方やらなきゃいけないわけですね、だからね。被害のほうも..... ・そうですね。暴力している側に対してもやらなきゃいけないけれども、でも、している側のほうが、自分はだから正しいと、あおり運転じゃないですが、自分は正しいと思っているので、なかなかそういう講座をやっても、「いや、自分は別に何の非もないので」と言って受けに来ないですね。
<p>石阪委員長 高祖委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも来ないということですね。 ・そうですね。
<p>石阪委員長 高祖委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり講座の限界って、そういうところにあるというか。
<p>石阪委員長 高祖委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そこはありますね。だから、それを思うと、私は子育ての虐待防止で、妊娠中の講座というのを強化してほしいという活動をしているんですけども。 ・妊娠中の女性向けの講座ということですか、そうすると。 ・妊娠中の夫婦向けです。男性のDVとかもそうですが、どこの段階で伝えるかということも大切です。小学生とか中学生向けにデートDVなどをテーマにすることも。あともう一つは、やっぱり妊娠中の両親学級だと思います。子どもが生まれるという共通項があるので、そこをなるべく義務化するぐらいな感じにして、男性も女性もパートナーに対しての暴力はだめだし、子どもにもだめだよということを伝えるということ。そういう講座を1回みんな通ってもらうと親自身も暴力をしなくなるし、子どもも暴力を受けなければ子ども自身もしなくなるという。その連鎖を切ることにもつながるかなと思ってやっています。
<p>石阪委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あと、今の話だとやっぱり子ども、デートDV、例えば、学校でデートDVって

<p>高祖委員 石阪委員長 高祖委員</p>	<p>なかなか難しいんですか。子ども向けに、DV教室を。先生方もちょっと、小学校では、なかなか難しいか。中学校か高校か、デートDVというと、そういうことなのか。これも実は大きな問題ですもんね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。でも、中高ぐらいで…… ・結構恋人間でいろいろ暴力あったり。 ・デートDVという言葉じゃなくても、やっぱり、友達とか大好きな相手が自分の思いどおりに動いてくれないときに、あなたはどうするのみたいな感じでちょっとワークショップ的に行うのもいいですね。暴力で従わせるんではないというカリキュラムを行っている自治体とかもありますので。
<p>石阪委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あとは、やっぱり性的マイノリティーに対するいじめというのも1つ問題になっているので、このあたりも多分、学校への本当は啓発・普及というの必要なんでしょうけれども、おそらく先生方、結構その辺難しいですよ、多分ね。多分やられているとは思いますが、研修で。 ・一通り今お話を伺いましたけれども、まず、最初貧困から来て、そして、やっぱり、企業の女性活躍や、ある意味では企業の啓発というところ、それから、地域とか子どもたちに対するさまざまな支援、そして、暴力であったりとか、どちらかという家庭とか、それから高齢者の問題ということで非常に幅広くきましたけれども、ちょっと集約していくと4つぐらいにはなりそうかなというふうにも思っていて、もし2年あるとすると。 ・まず1つは、ちょっとヘビーなテーマですけども、DVか、あるいは貧困かというところが1つ今年度取り上げてもいいかなと、皆さんのお話を伺うとですね。ここで言うと、3番の、足立区の場合は基本計画も、配偶者暴力の基本計画もありますので、これの今取り組みをちょっと紹介いただきながら皆さんからご意見を、例えば、もっとこうしたらいいんじゃないかとか、こういうこともできるんじゃないかというお話、これで言うと3番ですね。ここに1つ絞ることも可能ですし、それから、多くの皆さんから出た一番下ですね。4番の2、貧困の連鎖を断ち切るための、特にこれはひとり親ですけども、足立区の場合ひとり親対策というのは喫緊の課題だということでここにスポットを当てて、もっとひとり親、これはどうなんでしょう、ひとり親が、逆に言えば、自立して子どもを育てられるような環境をどうやってみんなで支えながらつくっていけるかという、そういう多分ミッションだと思うんですけども、こういった問題が1つあり得るのかなと。
<p>乾副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとよろしいですか。平成30年度に子どもたちを健やかに育む地域の未来へつなぐ足立プロジェクトの話はどんなだったんですか。すみません、ちょっと記憶していないんですが。
<p>石阪委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年ですね。
<p>乾副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年ですね。
<p>石阪委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年は担当課はどこ。
<p>乾副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来ていただいているんですね。
<p>寺島課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの貧困対策担当課が来てヒアリングを受けています。
<p>石阪委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それで、内容としては区の貧困施策がちょっと何年ぐらいになるんですけど、貧困が立ち上がって3年ぐらい。
<p>佐藤係長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年ぐらいでしたか。
<p>石阪委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・その間の成果を見たいということで、実際、足立区どうなの。貧困って一応看板を立ち上げているけれども。
<p>寺島課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全般的なところのお話でしたよね。
<p>石阪委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そういう話でしたね。ですので、概略ですね、足立区の貧困対策の概略を来てい

	<p>ただいてお話を伺ったということで、数字としてはいろんな取り組みされているということと、おそらく貧困って本当は多部局にまたがるものを足立区の場合1つ立ち上げて、どちらかというところが中心になってされているというお話だったと思うんですけれども。</p>
猪野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・5年計画なんかでのちょうど3年目とかの途中で、一応その目標数値に向かってはいい感じで進んでいる状態というふうに聞いたような。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ですので、これはどちらかというところ行政が今進めている貧困対策の説明を昨年度はしてもらったという。
乾副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、全般的なという。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・全般的な説明ですね。
乾副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの貧困だったんですね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・うん。だから、かなり項目あったと思います。いろいろ教育面から人や支援からということですね。場合によっては重複してしまう可能性もあるかもしれないです、下をやるとね。
乾副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭ということに限定……
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ、今回これもし取り上げるんだったらひとり親ですね。ひとり親に特化して、どうですかね。そうすると、ひとり親というのか、もしくはDVというの1つあり得るんですけれども、皆さんの関心ということ、あるいは、逆に言えば、課題の緊急性ということを考えてどちらかは1つお話を伺ってみたいと思うんですが、どうでしょうか。 ・去年貧困をやったから来年度に回してもいいんですけれども、貧困については、多分、来るとしたら同じ担当課ですよ。
寺島課長	<ul style="list-style-type: none"> ・いや、ひとり親であれば親子支援課を呼んで、より個別的にひとり親の支援をやっている所管を呼んでという形になると思いますが。
乾副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親だと福祉のほうに入るの。
寺島課長	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉部です。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉か。どうでしょうか。ひとり親、確かに気になるころではあるというか、実際に、できれば何かリアルなその生活というのを知りたいですね。どんなところで困っていらして、どんな支援が足りないのかということ、多分担当課だとわかると思うんですよ。今、足立区はそれに向けてこういうことをやっているんだという政策的なお話もいただけると思うんですけれども、もし皆さんからいろいろ質問したいことや聞きたいことがあれば、ひとり親の担当部局に来ていただくということも可能なんですか。
内藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それは2項目に絞る前にお話を伺える、そういうことなんですか。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・いや、ある程度絞って、その絞ったところの担当課がいらっしゃるということですね。 ・どちらかというところ、あまり暗い話ばかりしているのもどうでしょうか。会議として、DVと貧困って何かすごい会議。男女共同参画ということ考えると、もう一つはちょっと前向きな、こういうふうになればよりよくなるんじゃないかという意味で、これで言うと比較的上のほうですよ。ですので、1番あたりの話を1つ入れてもいいのかなと、今年度に関して言うと。 ・ですので、1つは、例えば、先ほど保田委員をはじめ、あと地域の話もありましたけれども、企業や地域のことを少し前向きな取り組みとしてお話しいただく。これは子育てや介護も含めてということなんですけれども、地域でどうやってそれを支えているのかとか、そういう話も1つありかなと。もう一つは、やっぱりちょっと困難を抱えている方ですよ。DV被害者であったりとか、ひとり親家庭であったり、

この2つかなという、お話を伺っているとそんな感じしますが、どうでしょうか。

・じゃ、DVのほうがいいですかね。去年、貧困来ていただいたから。それとも、何か皆さん、最初4人貧困がずらっと出てきたので、ひとり親というのにちょっとスポットを当ててみるのもおもしろいですかね。どうですか、ひとり親にあえて絞ってみましょうか。今まであまり議論なかった。ひとり親に絞ってお話を伺う機会ってなかったので、足立区の一つの問題の根深さでもあるひとり親家庭の支援、これを1つ議題として取り上げてみたいと思いますが、よろしいでしょうか。

・1つ目のテーマ、あまり関心のない方もいらっしゃるかもしれませんが、DVについてはちょっと様子を見て次年度以降の課題というふうにさせてもらって、まずは優先としてひとり親ですので、これは担当課のほうにまた調整をいただくんですけども、今、皆さんからひとり親家庭についての問題もちょっといただきながら、もし質問があれば事前に、今日質問を上げていただいたほうが担当課のほうも次回来たときにお答えしてくれると思いますので、またちょっと後で皆さんからご意見とか考え方みたいなのを伺ってみたいと思います。

・あともう一点ですけれども、これはどうしましょうか。例えば、よく出てきたのは女性のキャリア形成とか、それから、子育てに関すること、子育て、介護に関することですね。それから、地域でのネットワークであったり、啓発というのも1つ大事なことだということでしたけれども、どのあたり。これで言うと多分1番に該当する、ワーク・ライフ・バランスの推進、広い意味で言うことですね。

・あと、LGBTは出たんですけども、これは区として何か考え方があれば聞いてみたいんですけども、多分、区長も外向けの発信はしていないですし、担当課でも多分、議論せよということは言われていないかな。

・そうです、まだそこまで踏み込んだ段階では……

・僕も、伺ったところによると他区の様子を見て、必要であればという形だったので、多分、緊急の課題ではおそらく区としてはないのかなと。むしろ、今のひとり親の問題や、どちらかというDVとかそういうほうが緊急性が高いという感じですので、ちょっとLGBTは今年度は避けようかなというふうに思っています。

・それから、人権の問題は結構あるんですけども、どうでしょうかね。なかなか難しいテーマではあるんですけども。

・さっき2の4、孤立の話は出ましたよね。5080でしたっけ、あの……

・5080問題ね。

・引きこもり問題などありますし。

・老老介護の問題ですね、俗に言うね。

・はい。

・孤立をやってみますか。どうですか。皆さん、孤立ってイメージできますか。ここにいらっしゃる方、多分孤立されている方はあまりいないと思うんですけども、日々何らか皆さんネットワークをお持ちで。ただ、これもどちらかというひとり親家庭に近いのかな、テーマ的には、ネットワークが少ないという意味でいうとね、どうなの、また違うのかな。

・いわゆる引きこもりですかね。

・孤立と引きこもりって、また違うんですか。

・孤立というのは、もっと広い概念なんですよね。だから、足立区で言う孤立というのは何かありましたよね、定義がね。何日間以上接触がないみたいなこと。

・活動として動いていて、調査がありましたよね、孤立ゼロを……

・ありましたね、そこね。

寺島課長
石阪委員長

内藤委員
石阪委員長
内藤委員
石阪委員長
内藤委員
石阪委員長

乾副委員長
小川委員
石阪委員長

小川委員
乾副委員長

小川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・あのときにね、あの..... ・高齢の方で地域とつながっていない方という形ですよね。 ・そうですね。足立区は多分、施策として、いわゆる引きこもりとかニート対策を孤立施策の中に位置づけていないんです、まだね。あくまで高齢者を中心にやっている孤立対策で、今、多分、マスコミとかで問題になっているのは、40代とか50代で引きこもってしまってネットワークが全くなくなってしまった。
寺島課長	
石阪委員長	
上野委員	
石阪委員長	
上野委員	
内藤委員	
上野委員	
小川委員	
石阪委員長	
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・男性が多いんですね。 ・よく言われる男性の引きこもりというやつですけども。 ・男性の引きこもり。 ・むしろそこがどういう施策になっているのか。行政の施策の中から漏れているとすると、どこかで指摘する意義はあると思うね。 ・高齢者はまとまった..... ・高齢者はみんな全体に、皆さんやっていますものね。やっているから。 ・高齢者は結構足立区は手厚くね。 ・やっているから。 ・やっています。 ・調査は終わったんですね。 ・調査は全てやったんですね。 ・ただ、その後孤立している人をどうするかという支援のところが止まっている。 ・孤立ゼロプロジェクトでしたっけ。 ・そうです。 ・やっています。 ・一応、75歳以上全ての世帯を回って、孤立状況をまず調査をして、そして、孤立している場合は孤立にならないようにいろいろなところに関係機関をつなぐというところが一応プロジェクトの最終目的なんですけれども、70歳以上、75歳以上、おひとりの場合が70..... ・夫婦の場合と単身の場合があります。 ・何か年齢差あるんですけども、これは多分、他の自治体でやっているところはないので、そういう意味では先駆的な事例なんですけれども、ただ、よく問題になるのはその下の世代についての孤立状況の把握というのはどうもやっていないみたいで、やっている自治体..... ・今、2の4のところを見えていますけれども、セーフティネット事業を新規で、ニートや引きこもりなど社会との関係が希薄でというところで。 ・これは多分中長期目標ですね、足立区の。短期的にどうこうということでは多分なかったと。 ・一応、事業としては入ってきてはいると。 ・位置づけようという感じですかね。イメージとしてはそんな感じですよ。多分、孤立ゼロプロジェクトの中に60代以下は多分入っていない。 ・入っていないですね。別なやつね。 ・ですので、これは多分コメントとして言うことはできるけれども、足立区サイドからもし来ていただいても多分何も発言ができないという、申しわけありません、何もやっていないんですみたいな感じになってしまう可能性はあるので。 ・もし、お話を聞くとすると孤立ゼロの取り組みですよ。70代以上の方の孤立支援策というのは何うことは多分できますね。 ・そうですね。あと、今、地域包括ケアシステムの中に組み込んでというのがあるので、その関連の動きのお話はできるとは思うんですけども。
猪野委員	
石阪委員長	
猪野委員	
石阪委員長	
猪野委員	
小川委員	
石阪委員長	
寺島課長	
石阪委員長	
内藤委員	
石阪委員長	
内藤委員	
石阪委員長	
寺島課長	

石阪委員長	<p>・地域包括は、知っている方は知っていると思うんですけども、医療と介護と一体化させてワンストップで、どちらかとうとご高齢の方を支えようという仕組みなんですけれども、今いろんな自治体では地域包括支援センターというのをつくって、そこを窓口にして進めているんですが、いろいろ問題もあるんですけども、とにかく足立区は今、網羅的にそれができているということなんで、その話を聞いて、どうやって孤立している方々を支援しているかとか、そういう話を伺うことは多分できる。福祉からのサポートになるんですかね、そうするとね。</p>
内藤委員	<p>・あともう一つの候補は介護ですか。</p>
石阪委員長	<p>・おそらく、だから、介護だと地域包括かな。来ていただくとすると。一番よくご存じですね、多分あそこはね。</p>
内藤委員	<p>・男女問題を非常に意識すると、よりその介護、担い手が多く……</p>
石阪委員長	<p>・担い手の多くが女性であるということ。</p>
内藤委員	<p>・女性であるということに留意して介護、1の3あたりになるんですか、1ですよ。そのあたりになってくるのかもしれないですね。</p>
石阪委員長	<p>・結局そうなんですよね。だから、これは実は、保育も一緒に、いわゆる介護、保育って、一番賃金体系、労働体系が劣悪だと言われているところに女性労働力が集中しているという問題を広く考えるとですよ。</p> <p>・これは何でかということ、結構、やっぱり背景があるんですよ。日本というのは家族という仕組みで成り立っているから、男性のほうにどちらかということ賃金面で優遇してあげてたくさん、女性のほうはサブで働くからもともといいだろうということで、女性はあまり賃金を上げずにこれまできたという経緯もあって、これが賃金格差や待遇格差を助長していると捉える方もいるんで、やっぱり保育、介護の待遇の悪さというところ、これが、逆に言えば、女性労働力をそういうところで何とか使ってということになってしまいうんで、この問題ですね。男女共同参画という視点で言うとな。</p>
高祖委員	<p>・ただ、地域包括支援センター自体が高齢者中心、今までそっち側から来ましたけれども、子育てももう一緒にというか、ダブルケアの世代とかもすごい増えているので、やっぱり、そこが地域包括、地域ともつながりながら、そこでつながることで共働きしていたりとかいうところの何かちょっとつながってるところもあるのかもしれない。</p>
石阪委員長	<p>・結局連動するんですね。いわゆる介護だけというわけには当然いかないんで、例えば家族が支えるとなると、やっぱり仕事もしなきゃいけないし、場合によっては、お子さんがいる場合は子どもの面倒も見なきゃいけない、しかも介護も発生するというので、その中心的な役割が家庭の中で言えば女性であるということ、これも実は大きな負担になっているんだと思うんですよ。</p>
内藤委員	<p>・これも確かに、これは、かなり難しい問題ですけどもね。</p>
石阪委員長	<p>・足立区という自治体自体でやれることがどこまでであるかという。</p> <p>・ただ、お話は聞いてみたいという方がもしいれば、地域包括って、多分あまり皆さんイメージないと思うんですよ。どんなことをされているのかというのが多分よくわからないとか、実際介護されている方が身近にいればわかるんですけども、そうじゃない方は日常的に接点ってほとんど多分ないと思いますので。</p> <p>・ただ、切り口としては男女共同参画の委員会ですから、別に介護状況がどうこうという話よりも、例えば、負担のアンバランスであったりとか、場合によっては、もうちょっとみんなが参画できるような仕組みってつくれるんじゃないかとか、あるいは問題点の指摘であったりとかということに多分なると思うんですけども、どうでしょうか、地域包括。地域包括にアプローチしてみましようか。</p>

猪野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・確かにダブル介護、子どものところも見ている部分もあるんで、そういうのも含めて平等な視点でこう、それは……
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうすると、例えばですけれども、ここで言うと、柱立てとしては1の3で、さらに細かなところで言うと、育児、介護及び施策等の充実のところかな。それから、子育てや介護に関する協創というところでは、あたりのところになるんですかね。
猪野委員 石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。 ・ある意味で話を聞いてみるとすると地域包括ですかね。これ、課長、ここは地域包括ですか。
寺島課長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、地域包括でしょうね、ここは。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに大きく2つということになると、1つはもし貧困でいくとすると、もう1つは、やっぱり地域でどうやってこれから介護、子育てを担うかというのが1つの大きなテーマになってくるので、ここもあかなという気はしますけれども、どうでしょうか、これについては。 ・今回、拾い切れなかったものについては次年度に回すということもありますので、例えば、本来DVなんかもやってもいいかなと思ったんですけれども、場合によってはちょっと次年度、それから、例えば企業であったり女性の働き方という点も例えば次年度に回して、今回は地域と、それからひとり親というのに絞って皆さんからご意見を伺うということで今ちょっと整理をしましたけれども、いかがですか。どうでしょう、そのあたり、今年度についてはですよ、もちろん。 ・例えば、保田委員あたりどうでしょうか。なかなか、ご自身の体験とはまたちょっと違うところですけども、今年度については地域での話と、それから、ひとり親、これは実は就労とも大きく絡むんですけども、どうでしょうか。よろしいですかね。 ・じゃ、今、もう一度整理させていただきますけれども、2つ、今回のテーマは、1つは、これで言うと1の大きなテーマで1の3ですね。安心して育児や介護ができる社会の醸成というところで、これはまたちょっと事務局と相談しますが、そちらの方々にお越しいただいて、地域でどうやって介護や育児を担っているかというお話をいただくと。 ・それから、2つ目は、これで言うと4の2になりますかね。貧困の連鎖の回避のためのひとり親家庭への日常生活支援ということで、ひとり親に特化する形でどのような支援を実際行っていて、課題があるのかということをご一緒に議論いただくということで、関連部局の方にまたお越しいただいて、区としての取り組みをご説明いただくことになろうかと思う。 ・この2つで今年度進めていきたいと思います。よろしいでしょうか。 ・皆さんからいろいろそれぞれいただきましたけれども、また次年度もありますので、2年任期ということもありますから、こういうことも本当はやりたかったということもあったと思うんですが、ちょっと次年度のほうに回させていただくことにしたいと思います。
石阪委員長	<p>4．所管課ヒアリングについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さて、ここからですけれども、今度所管課のヒアリングが、これもやるとすると次回ですかね。
寺島課長	<ul style="list-style-type: none"> ・次回ですね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。次回ということになりますので、少し皆さんからある程度聞きたいことであったり、もし事前に資料、例えば数字であったりとか、具体的にどうなっ

	<p>ているのかともし聞きたいことがあれば、今のうちにちょっとこちらのほうから要望することも可能ですので、まずは、1の3のほうですね。子育てや介護に関することですけれども、こちらのほうで、例えば、地域包括に伺ってみたいこととか、事前にちょっと確認しておきたいことがあればいただければと思うんですけれども。</p>
高祖委員 石阪委員長 高祖委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、高祖委員、何か聞いてみたいことってありますか、事前に地域包括。 ・そうですね、今、足立区の世界包括、何カ所あるのでしょうか。 ・そもそも地域包括の全体の体制ですよね。 ・どのくらいあって、そこをどれだけカバーしてくださっているのかというところをうかがいたいですね。
猪野委員 石阪委員長 猪野委員 石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・22、3カ所、何か中学校区にある。 ・ぐらいいあるのかな。 ・ぐらいいの規模であるって聞いて、22カ所か3カ所。 ・おそらく、でも、知らない方は地域包括って何なのかがよくわからないと思うんですね。
猪野委員 石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りがいないと多分、接点ないと思います。 ・そもそも医療、介護を一体化するってどんなメリットがあって、日常的にどんなことされているのかというのよくわからないと思うので、そうですね、そのあたりちょっと概要説明ですね、まずね。 ・何カ所あるとか、そういうハード面も含めてどんなお仕事をされていて、どんなサービスを提供しているのか。
猪野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・区が直接じゃなくて、結局、社会福祉協議会に委託して、そこが運営しているので、意外にそう答えられちゃうことが多くて、委託しているからそっちに聞いてみたいな。
石阪委員長 猪野委員 石阪委員長 寺島課長 石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そう、そんなことある。 ・結構あります。 ・そうか、委託。でも、数字はわかりますよね、ある程度ね。 ・数字は、はい、わかりますけれども。 ・おそらくかなり連携している会議なんかは僕はやっていると聞いているので、知らないというわけには多分いかないと思う。
猪野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、やっていないことはないと思います、一応区役所の中に入っていますから。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうそう、入っているんで、社協に全部任せていますからということは、多分お答えはないと思うんですけれども。 ・あと、例えば、具体的に介護とか子育てで、どうだろう、例えば事例みたいなのもいいですかね。
猪野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、現状どういうふうに政策をやっているかと、多分、今後何年間かの間にこうしていくという計画があると思うんですけれども、何かその辺を聞いてみたいです。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・あとは、ちょっと男女ということかというと、例えば、かかわっている方の、女性の比率というのも変ですけれども、どんな感じなのか、実際担い手の方や支援する側のほうの女性がどういう状況なのかとかですね、そのあたりかな。 ・あるいは、介護にかかわっている現場、広い意味で介護にかかわっている、子育てにかかわっている現場で実際どういう問題があるのか。さっき言った仕事とワーク・ライフ・バランスの面も含めて。
高祖委員	<ul style="list-style-type: none"> ・割と全国な感じだと地域包括といっても、やっぱり高齢者のほうから来ているの

<p>石阪委員長 高祖委員</p>	<p>で、子育てのほうはあまりやっていなかったりとか、一応看板はかかっているんだけれども、実際ほぼ高齢者のほうにしか、人手も足りないというのもあると思いますが、そのような話も聞ければ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なので、ちょっと足立区の現状を私が把握できていないんですけれども。 ・むしろ子育て支援にどれくらいかかわっているか。 ・そう、地域包括の中で子育て支援のほうとちゃんと連携しているのかどうかという。
<p>石阪委員長 猪野委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やっているのかどうかね。 ・最近ですよ、きつとね、ここ。
<p>石阪委員長 猪野委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できてどれくらいですか、地域包括って。 ・地域包括自体の仕組みは結構あるんだと思うんですけれども、全部の地域包括でその子育ての部分を.....
<p>高祖委員 猪野委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そこまでやっているかどうかということですよ。 ・主の基幹包括は.....
<p>石阪委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・だから、子育てになると今度また別なんですよ、ここね。足立区はA S M A Pというのがあって、これね、すごいユニークな取り組みで、これは妊娠期から多分幼児期まで1つの一貫した支援をするという足立区独自の支援の仕方、普通は細切れなんですよ。妊娠中はここで、生まれて乳幼児のときはこっちで、それからこっちへ移動して行って、幼児期、学童期に入るということがそれぞれ担当部署が違うんですけれども、そうするとサービスが断片的になって、場合によってはそこで虐待が起こったりとか、あるいは育児放棄が起こったりということもあるので、一貫して同じところで見るというA S M A Pという制度があるんですけれども。
<p>高祖委員 石阪委員長 寺島課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・A S M A Pは地域包括とはあまり連携をしていないように思います。 ・これは、A S M A Pはどこでやる。 ・衛生部でやっているものですので、それは妊娠届が出た段階でハイリスクの妊婦さんを把握して、そこから切れ目のない支援をしていくというような考え方ですね。
<p>石阪委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何かチェックシートがあるんですよ。ちょっとリスクの高いとなった人にはそういうさっき言ったような支援が行われるという、たしかそんな仕組みだったと思うんですけれども。
<p>乾副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。ちょうど今日の朝日新聞に足立区の取り組みが出ていたんですけれども、A S M A Pとは書いていない、虐待の予防というところが.....
<p>石阪委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待の予防でアプリを開発したということですね。負の連鎖を断ち切るにはやっぱり予防的な早期支援が必要であると。
<p>乾副委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それがA S M A Pなんですよ。
<p>石阪委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろいですね。アプリを使って、つまり、若いお母さんだとなかなか直接的な支援ではないので、いわゆる予防のためにアプリでいろいろ子育て情報が物色できるようにすれば虐待防止につながるというような、そんな新聞記事ですけれども。 ・それともA S M A Pとか、そっちにしますか。そっちのほうが。これは足立区の、どちらかという看板施策ではあるんですけれども、どうでしょうか。かなり細かいですよ、あのチェックシートとかも。未然に危なそうな人を、ある意味ではターゲットを特定して、そこを重点的に支援していくというやり方なんですけれども。 ・地域包括というところの自治体もそんなに、もっと言うと、多分制度の説明だけになってしまっ。 ・広い。

高祖委員 石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・広過ぎますね。 ・ただ、おそらくASMAPといっても課題がないわけではなくて、例えば、チェックリストがこれでいいのかとか、それから、それでも漏れてしまう人って、やっぱりいるんじゃないかというような、多分そういう課題もあるとは思うんですね。
高祖委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そこは私も思っていて。やっぱり、チェックシートを書いてもらってそこから抽出して支援していくと、前、ちらっとだけお話伺ったことがあります。でも、そうすると、チェックシートがベースになるので、チェックシートにちゃんと本音で書いているのかというところが問題。面談しているのではなくて、それに書かせた情報でスタートしているので、結構、やっぱり何か問題抱えていらっしゃる方だと面倒くさいと思ってしまうというか……
石阪委員長 高祖委員	<ul style="list-style-type: none"> ・正直に書かない。 ・そうそう、これに大変な妊婦って思われぬようにチェックしようという気持ちも働くじゃないですか。というところの、その一番最初の部分はちょっと気になるかなと思って話を聞きましたけれども。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・おそらくそうなんです。結局、だから、そのチェックシートに漏れてしまったところはしょうがないですね、多分行政としての回答は。
高祖委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そこでひっかかったらもうずっとこれをやったださるけれども、その一番最初のところでひっかからない方が多分結構いる。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・あり得ますね、それはね。その辺を、だから、どうしているかですね。これは、予防でやっているんですね、一応ね。虐待もそうですし、予防のためにあらかじめちょっと可能性の高そうな人をターゲットを絞ってそこに重点的にということなので、漏れてしまった場合はしょうがないということになるのか。
寺島課長	<ul style="list-style-type: none"> ・あとは、随時乳幼児点検、声かけて来ない方とか。
石阪委員長 寺島課長	<ul style="list-style-type: none"> ・何カ月健診ってあるんで、そこで。 ・子どもたちの歯の健診に声をかけても来ない方とか、そういう形でやっぱりあぶり出されてきますので、そこにアプローチをかけていくという形でやっていますね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・結局、これはすごくアナログ的なやり方ですけども、多分一番効果があるというのが足立区の主張なんです。結局、一人一人しょうがないから見つけ出して、ちょっと危なそうな人を重点的にやっというということで、事あるごとにいるんなタイミングがあるんで、それをうまく利用しながらチェックしていくというやり方ですね。おそらくそういうことですね。
寺島課長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうです。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ、どうなんだろう。これで拾えるのかとか多分いろんな問題あるんで、もし呼ぶんであれば呼ぶことは可能ですので、例えば地域を、ちょっとイレギュラーですけれども3つ呼ぶということもできなくはないですね。
乾副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここら辺ずっとこども家庭支援課ともつながりがあるというね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・これはどうでしょうか。保健センター、ファミリーサポートとか。そうすると、これはどちらかという一番下のほうのひとり親のほうになってくるわけですね。
乾副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それと関連があるかもしれませんね。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そっちのほうでちょっと説明、例えば、ファミサポとか、預かりとか、エースマップはちょっと違いますけれども、担当が。こども家庭支援課のほうで何かちょっと情報提供いただけるかもしれないですね。 ・これはどこを呼ぶのがいいですかね。こども家庭支援課を呼べば、ひとり親だけではなくて、ある意味では子育て、比較的網羅的に聞くことはできますかね。

寺島課長	・そうですね。
石阪委員長	・それとも、ひとり親担当ってまた別にいらっしゃって、その方、それしかわからない、どうでしょうか、もし.....
寺島課長	・それぞれの分野がありますので、両方呼んで両方聞いてみるということは可能だとは思いますが、
石阪委員長	・こども家庭支援課か。そうですね。
高祖委員	・子育て全体だとちょっとまた広くなっちゃうので、足立区の場合ということで考えると、貧困につながりやすいひとり親というほうを中心にしたほうがいいですね。
石阪委員長	・じゃ、ひとり親のほうについては、こども家庭支援課ですかね。そっちで。
寺島課長	・親子支援課。
石阪委員長	・親子支援課、そちらのほうでひとり親に特化した形でちょっとお話を、どんな支援をしているのかをちょっとご説明いただいて、もし皆さんから何か今質問があれば、皆さんの身近にひとり親家庭の方っていらっしゃいますか。どうでしょうか。例えば、どんな困難を抱えていらっしゃるかとか、どんな支援をしているのか、多分わからないですね、皆さんね。
	・じゃ、ちょっとそれを、どんな支援をしているかを、支援の全体はもちろんですけれども、どのような形か概要説明をちょっといただいて、当日ちょっと質疑応答させていただくということにさせていただく形かな。まだなかなか情報がない中で多分何聞きたいと言われてもわからないと思いますので。
	・それともう一つは、どうでしょうか、地域.....
高祖委員	・ひとり親で男性のひとり親というのも足立区どのくらいいるのかちょっとわからないですけども。
石阪委員長	・じゃ、ちょっとそれも、割合ですね。
高祖委員	・そうですね。受けられるその支援が、男性のひとり親のほうは少ないというか、みたいな話があって、それをなるべく同等にというような話もありましたけれども、そこら辺を同じぐらいのサポートが受けられて.....
石阪委員長	・多分、数でいうと圧倒的に少ないと思うんですけども。
	・そのあたりの支援の差というんでしょうかね。
高祖委員	・はい。
内藤委員	・今のご指摘とほとんど重なりますけれども、親子支援課さんにご説明いただくときには、ただひとり親家庭施策だけでなく男女共同参画の観点から情報提供いただくのがいいかなと思います。
石阪委員長	・だから、今の場合もそういう形ですね。例えば、男性のひとり親もそうだし。
内藤委員	・そうですね、男性のということでしたけれども、おそらくマジョリティは女性ひとり親なので収入面なども含めて.....
石阪委員長	・変わってくるでしょうね、多分ね。
内藤委員	・はい。あとは相談事例などもあるようでしたら、プライバシーが問題ない限りにおいて提供いただければうれしいです。
石阪委員長	・例えば、男性の場合、どちらかというとなら就労問題というよりはまたちょっと変わってきますよね。おそらくお仕事はされているケースが多くて、逆に子どもをなかなか面倒を見てもらうのが難しいとか、女性の場合は、どちらかというとなら就労問題も、収入がないとか、そういう方向にも多分なって、ちょっと問題が違うのかなという気もするので、そのあたりもし違いがあれば、そのあたりも説明いただくということも必要かな。
	・ほか、どうでしょうか。例えば、ひとり親家庭についてどんなことを聞いてみた

<p>乾副委員長 石阪委員長 乾副委員長 佐藤係長 石阪委員長 佐藤係長 石阪委員長</p> <p>乾副委員長 石阪委員長 寺島課長 石阪委員長</p> <p>乾副委員長 石阪委員長</p> <p>猪野委員 石阪委員長</p>	<p>いとか、もしあれば。就業率みたいなのは確かに聞いてみたいですね。働いている場合に、フルタイムの働き方をされている人であったり、例えば働いていないという方もいますよね、当然ね。どういう状況なのか、区としてもしデータを持っていれば、そのあたり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それから、あとはネットワークかな。孤立化という、ここにも書いてありますけれども、実際にどのぐらい孤立しているのかということも含めて、やっぱり、孤立が貧困につながるという足立区のデータがあるということは、より孤立につながりやすいということもあるんで、逆に言えば、どんなネットワークを足立区としては構築しようとしているのかですね、ひとり親家庭の親に対してね。そういうこともちょっと聞いてみたいですね。 ・豆の木サロンというネットワークづくりをしていますね。 ・それはひとり親家庭のネットワーク。 ・はい、そうですね。 ・そうですね。 ・これは行政が中心になって。 ・親子支援課で取り組んでいますね。 ・じゃ、例えば、豆の木サロンの様子であったりとか、どんな状況なのか。 ・あと、もう一つはどうでしょうかね。地域包括にするか、例えば、A S M A P 等々初め、これは何課でしたっけ、A S M A P って。 ・保健所ですね。衛生部。 ・衛生部。 ・保健予防課ですかね、A S M A P ですと。 ・どうでしょうか。ただ、A S M A P だとあまり地域というよりは、どちらかというと、妊娠とか乳幼児支援というようなイメージが強くて、あまり地域のことは多分お話としては出てこないのかなという気がしますね。 ・そうですね。どちらかというと、そこは虐待防止とかそっちにつながりますね。 ・どっちかというとそっちですよ。だから、もし聞くとすると翌年のDVとか虐待防止のところでA S M A P の取り組みを伺ってもいいのかなという気がするので、もっと何か地域性の強いお話のほうがいいのかなという気はするんですよ。 ・例えば、地域的なバランスも聞いてみたいですね。この地域は比較的地域包括はうまくいっているけれども、この地域はもしだめという地域があるとすると、それはなぜなのかとか、どういうところに問題があるのかとか、おそらく足立区もいろいろ、多分その先駆的にいい取り組みのところと、なかなかうまくいっていないところもあると思いますので、先ほどの居住なんかもかなり大きいのかもかもしれませんね。マンションに住んでいる方が多いとか、あるいは、どちらかというと貧困家庭が多いとか、場合によっては、外国籍の方が多いうとか、そういった状況によって多分、地域包括が機能している、していないという問題も出てくるので、結構地域性について伺ってみるのもありかなという。 ・多分違うと思いますね、足立区のこの辺と全然違うと思いますね。 ・じゃ、どうでしょうか。地域包括に来てもらって、ちょっと地域性のことも伺ってみるということで、おそらく地域によっていろんな課題、問題というのは多分異なってくると思いますよね。 ・あとは、1つは、さっき地域包括呼ぶときに男女共同参画的な視点ということだと、例えば、女性の負担の問題や率の問題ですね。このあたりもちょっと伺ってみたいことと、じゃ、包括でいいですか、とりあえず来ていただくのは。かなり広いですがけれども、地域包括の方にお越しいただくということ、担当課の……
---	---

猪野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものほうのこともやっていくということであれば、そっちの何か計画とか方針とかもあわせて聞けると。
高祖委員	<ul style="list-style-type: none"> ・やっている全体の中で、その子どものことまで含めて、子育て中の人で介護もしている方がそこで利用しているようなサービスがあるのでしょうか。地域包括の中にはいくつかあるかもしれない。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・おそらく、だから、そのあたりですよ。僕のイメージだと地域包括というところでも高齢者のイメージが強いので、どのくらい子育てとか、これからやろうとしていることも含めてその具体的な計画であったり、事業みたいなものもちょっと知らせてほしいということですね。 ・とりあえずそんなところですね、そうするとね。じゃ、2つの部局の方にお越しいただいて、今回はヒアリングをしてみたいと思いますので、また皆さん、このテーマ的に言うと1の3ですかね。1の3と、それから4の2のところ、この2つのテーマについてまた深掘りをしていくということをして次回進めていきたいと思いません。 ・これは可能でしょうか、そうすると、そういう形で。もうちょっと、例えば質問事項とか整理したほうがいいですか。とりあえずは大丈夫そうですか。
佐藤係長	<ul style="list-style-type: none"> ・これで十分だと思います。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それ以外、多分来ていただいたときに概要を説明したところで、また多分質疑になると思うんですよ。 ・ということで、本年度は皆さんにご議論いただく、ご意見をいただくところはこの地域での介護、子育て支援みたいな、どちらかというところ、どうやって介護や子育てに対しての、足立区の場合、よく協創という言葉を使いますが、協創推進体制をつくっていくのかということ、これが1つ。 ・それから、もう一つは、ひとり親家庭への支援、足立区の1つの看板施策でもある貧困対策の一環ですけれども、どういう支援を足立区としてやっていけばいいのか。逆に、課題があるとするとどこにあるのかというようなところを皆さんにご意見いただくということかな。よろしいですか。 ・ですので、あと実際にご議論できる機会というのが、簡単に振り返ると、今回はヒアリングでほぼ終わりですかね。多少議論はできると思うんですけども、ほぼヒアリングで終わってしまって、それが8月、今月が2回目ですので9月19日はヒアリング、そして、4回目は重点分野に関する議論ということで、そのヒアリングを受けて皆さんからいろいろご意見をいただくと。そして、5回目は、これが最後になりますね。議論を継続してやってということですね。
寺島課長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。5回目でまとまれば。
石阪委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・5回、もしまとまらなければ6回目にいく可能性があり得るということですね。そうすると、12月になりますけれどもね。という流れで進めていきたいので、皆さんも、この2つの分野ということですので、地域での子育てや介護、それから、ひとり親家庭について聞きたいことであったりとか、例えば、それなりにもし皆さん事例であったりとか見識みたいなものをもしお持ちでしたらまた議論の場でいろいろお話しただければ、情報提供いただければと思います。 ・ということで、一応ヒアリングについてはこれでいいのかな。 ・もし何か皆さんから、よろしいですかね。
石阪委員長	<p>5. 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3番目の所管課のヒアリングについてはこれでおしまいということになりますので、事務連絡がもしあれば。 ・特に委員の皆さんからなければ、以上で本日の会議終了になります。よろしいで

	<p>しょうか。</p> <ul style="list-style-type: none">・ それでは、以上で本日の会議終了です。どうもありがとうございました。
--	--